

教科書採択公開資料

令和元年9月

旭東地区

令和元年度旭東地区教科用図書採択協議会委員名簿

和気町 (〒709-0511 和気町矢田305) TEL0869-88-1115 FAX0869-88-1506	
氏 名	職 名
徳 永 昭 伸	教 育 長
齊 木 孝	教 育 委 員
吉備中央町 (〒716-1241 吉備中央町吉川4860-6) TEL0866-56-9191 FAX0866-56-9393	
氏 名	職 名
津 島 雅 章	教 育 長
禰 元 幸 治	教 育 委 員
赤磐市 (〒709-0816 赤磐市下市337) TEL086 - 955-0972 FAX086-955-6060	
氏 名	職 名
内 田 恵 子	教 育 長
大 崎 陽 二	教 育 長 職 務 代 理 者
瀬戸内市 (〒701-4302 瀬戸内市牛窓町牛窓4911) TEL0869-34-5640 FAX0869-34-4790	
氏 名	職 名
東 南 信 行	教 育 長
藤 本 里 絵	教 育 委 員

学識経験者等委員

氏 名	市 町 名
石 原 玲 子	和 気 町
池 本 桂 治	赤 磐 市
小 林 憲 治	瀬 戸 内 市

令和2年度使用小学校教科用図書採択案理由

教科	種目	発行者 番号	発行者 の略称	採択理由（総評より）	前回 採択
国語	国語	38	光村	<p>○情報の扱い方に関わる教材が発達段階に応じて4系統に整理されている。</p> <p>○説明的な文章では、つながりを意識し、身につけた力を次の学習で生かしていける教材配列になっている。</p> <p>○該当学年の学習内容が「言葉の宝箱」や「たいせつ」などで巻末や単元末に整理されている。</p> <p>○学習者が必然性をもって教材に望めるように学校生活や日常の場面から題材を取り上げている。</p>	光村
国語	書写	38	光村	<p>○1つの教材が、見開き1ページで構成され、学習内容が焦点化されているため、児童にとって理解しやすくなっている。</p> <p>○接筆や折れ、曲がりなどを意識できるような配色やキャラクターが配置されており、児童が楽しんで学習をすることができる。</p> <p>○学習過程が3段階に分かれており、児童が見通しをもって学んだり、お互いの文字についてアドバイスをしたりすることができる構成になっている。</p> <p>○QRコードの利用により、動画資料が多く使えるようになっている。事前に教師が教材研究に役立てることもできる。</p>	光村
社会	社会	17	教出	<p>○各単元において、問題解決学習になるように構成されている。</p> <p>○1単位時間ごとに、導入で問い、終末で次時へのつながりを示し、探求的な活動になるように工夫されている。</p> <p>○我が国の国土や文化の継承、歴史、国際社会とのつながりについて理解を深められるように取り上げられている。</p> <p>○「ひろげる」というページを設けて、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促している。</p>	東書

社会	地図	46	帝国	<p>○世界の主な国の挨拶や生活の様子をイラストや写真で紹介することで、他国への理解が深まるように工夫されている。</p> <p>○地図活用能力を育めるように、地図帳の導入から使い方までを丁寧に扱っている。また、3年生から使用するため、簡略な地図から始まり、詳細な地図へと配列されている。</p> <p>○「地図マスターへの道」やキャラクターを用いて、楽しく地図帳を活用しながら技能を身に付けられるように工夫されている。</p> <p>○日本の自然の様子や産業などの資料と地図とを関連付けることで、学習を深められるよう見開きページで示されている。</p>	東書
算数	算数	61	啓林館	<p>○単元途中で練習ページを設けたり、学びのまとめでは三部構成にしたりするなどして、基礎基本の定着に向けた工夫がなされている。</p> <p>○筋道立てて考えられるような学習の展開や教具を工夫したり、毎時間のめあてを設定したりして主体的で深い学びへとつながるようにしている。</p> <p>○低学年からプログラミング的思考を育成する学習が取り上げられている。</p>	啓林館
理科	理科	2	東書	<p>○文字の大きさ、実験の手順などにインクルーシブ教育への配慮がなされており、分かりやすい紙面となっている。</p> <p>○「問題をつかもう」→「計画しよう」→「実験」→「考察」→「まとめ」→「自然への事物・現象の解説」などという配置になっており、指導者、児童ともに見通しをもって学習に取り組める構成となっている。</p> <p>○教科書のページをめくらないと実験の結果が分からないような配置になっている。</p> <p>○実験・観察や考察で、多様性を尊重する態度や他者と関わりながら問題を解決しようとする態度が育つよう工夫されている。</p>	東書
生活	生活	38	光村	<p>○児童が試行錯誤しながら主体的・対話的に学び、気付きの質を深めていく学習過程が丁寧に示されている。</p> <p>○季節の変化を見て比べられる写真やイラストなどがダイナミックに配置され、児童の学習意欲を高める工夫が見られる。</p>	光村

音楽	音楽	27	教芸	<p>○音楽で生活を豊かにする心と音楽科の確かな学力を育むとともに、主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びを促すことができるように編集されている。また、一年間の学習内容を音楽科の領域ごとに示すことにより、見通しをもって学べるように工夫されている。</p> <p>○知識の習得や理解の深まり、学びの広がりが促されるように、演奏のポイントや活動の手掛かりがキャラクターによって示されている。</p> <p>○リズムや音の高さを可視化した図形楽譜が用いられて、指導者、児童にとって使いやすく編集されている。</p>	教芸
図画 工作	図画 工作	116	日文	<p>○児童の興味関心を高める題材が配置され、3つの観点による学習のめあて、発想を膨らませるためのアドバイスや吹き出し、基本的な技能の習得のためのコーナーが配置され、一連の造形活動がスムーズに展開できるようになっている。</p> <p>○表現や鑑賞の中で、児童同士の対話が促進されるような展開や、ICT機器を活用して情報活用能力の育成が図られるようになっている。</p> <p>○1題材2ページの見開きになっており、造形活動への興味関心や見通しがもちやすい。また、一連の学習活動が同じレイアウトになっており、教師にとっても児童にとっても学習内容が分かりやすい。</p>	日文
家庭	家庭	9	開隆堂	<p>○見やすくわかりやすい写真を用いて、実習手順が見開きページで横に流れるように示されており、児童や指導者にとって使いやすく工夫されている。</p> <p>○ストーリー性を考慮した題材配列がなされ、見通しや目標をもって学習が進められるように工夫されている。</p> <p>○日本の伝統的な生活文化や外国の料理などの写真が適切に掲載され、我が国の伝統や他国を尊重する態度が養われるように工夫している。</p> <p>○キャラクターの吹き出しで見方・考え方の4つの視点が意識できるよう工夫されており、児童が課題意識をもって主体的に学習するための支援が適切になされている。</p>	開隆堂

体育	保健	224	学研	<p>○巻頭に1時間の学習の進め方が紹介されており、すべての児童が見通しをもって学ぶことを確認してから「つかむ・考える、考える・調べる、まとめる・深める」の3つの段階で学習ができるように工夫されている。</p> <p>○各単元の終わりに「もっとしりたい・調べたい」というページを設け、実生活への活用やより探求的な学習ができるように工夫されている。</p> <p>○「おうちで」・「ちいきで」のコーナーでは、学習したことを家庭や地域などで確かめたり調べたりする活動を示し、学びの場を広げているとともに、家の人とのコミュニケーションも促している。</p> <p>○第5・6学年では、日本人による海外での保健活動の様子や医学・保健分野で世界的に活躍した日本人について取り上げ、我国の国際社会への貢献について学ぶことができる資料として示している。</p>	学研
外国語	英語	38	光村	<p>○各課において、導入の見開きページで目標や言語事項が明示されており、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>○4技能のバランスの取れた言語活動がスモールステップで設定されて、協働的な学習に生かすことができる。</p> <p>○「Word list」やすごろくは、文字と絵を組み合わせることで外国語を探したり読み取ったりして、言語活動に生かすことができる。</p> <p>○各学年で、聞く活動から話す・読む・書く活動へと段階的に内容が展開されている。</p>	なし
道徳	道徳	116	日文	<p>○4つの視点の印や、ココロウ・4人の児童といったキャラクターで考える視点を分かりやすく表している。</p> <p>○いじめや情報モラル教育、安全な暮らしなど、現代的な課題に関わる題材を扱っており、身近な問題と結びつけて考えることができるようになっている。</p> <p>○写真や挿絵が鮮明で、内容を捉えやすいものとなっている。</p>	学図

平成31年度 第1回旭東地区教科用図書採択協議会議事録

平成31年4月26日 牛窓町公民館 中会議室

司 会：次に本年度の採択事務について、採択の流れ、選定委員、研究委員について事務局より説明願います。

事務局：採択の流れの表にあるように、今年度は、小学校全種目の採択と中学校全種目の採択替えの年となっています。中学校の全種目採択替えについては、昨年度文部科学省の教科書検定でどこからも申請がなかったこと、来年度全種目の新たな教科書の採択があることから、今年度は簡易採択で対応したいと考えています。このことについて、ご協議願います。また、小学校につきましては、規約の第9条にもありますように、全種目の専門委員会を設置し、調査研究を行う必要があります。専門委員会では、各種目とも選定委員1名、研究委員3～4名からなる専門委員会を組織し、調査研究を行います。各委員の役割は規約及び細則にも明記されておりますが、選定委員は、研究資料について検討を行い、採択の対象となる教科用図書の評価付けを行うものであり、研究委員は、教科用図書の取扱内容、内容の選択、程度、組織配列等に関して比較研究した資料作成を行うものであります。

会 長：説明がありましたとおり、本年度の採択につきましては、小学校全種目の採択と中学校全種目の採択替えです。なお、中学校全種目の採択替えに関しては、昨年度教科書検定の申請がなく新たなものは出ていません。また、来年度に中学校全種目の採択を新たにすることから本年度は簡易採択で行うことでよろしいか。

採択委員：異議なし。（全員賛成）

会 長：従いまして、本年度は小学校全種目の教科書について、選定・研究委員会を設置し、研究をおこなうこととします。選定・研究委員については、別紙のとおり、各市・町教育委員会から推薦されております。承認いただけますでしょうか。

採択委員：異議なし（全員賛成）

国語

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：話すこと、対話とか協議とかがこれから大切になってくると思います。そういったものが、ここで育まれていくと思います。どのように人の意見を受け入れ、どのように展開していったらいいかを東書には示されていると思うのですが、その判断はどのように考えられているのでしょうか。

研究委員：光村の巻末に学習方法や取り入れたい表現がまとめられています。そこに、パネルディスカッションの仕方とか対話の学習の進め方をすれば言語活動が充実していくようなまとめがたくさんあります。また、対話をしようと思っても、子どもが心の中に話したいことをもっておかないと話ができないと思いますが、子どもの身近な生活の中から題材を取り入れて話し合い活動に持って行けるような教材がたくさんあるので、子ども達が自分の言葉で話せるような内容を扱える教材があるのが光村図書でした。

採択委員：ありがとうございます。ただ、巻末にあるのと教材の間にあるのでは違いがでてくるのかなと思ったので質問しました。

選定委員：確かに、東書は言語活動がメインで子ども達が対話をしながら授業をつくることが見えやすいのですが、光村は、どの教材、どの単元についても、子ども達がテーマをもって学んでいくことができやすい。対話と会話の違いもよく言われますが、子ども達が一つの協議や課題をもって、相手がどんなことを考えるかなと考えることで対話につながりやすい教材がどこにでも入っている。

議 長：他に質問はありませんか。

採択委員：物語がありますよね。伝統的、同じ物語が入っている傾向はありますか。

研究委員：物語については、今まで長い間に渡って子ども達に愛されている教科書教材がそのまま残っているものもあります。しかし、現代に求められているような教材を新しく入れている、特に説明文に多いのですが、差し替えもあります。低学年の入門期にあげられている教材は、ほぼ現行の教材と変わりはありません。

採択委員：光村図書には、時代が変わってもよい教材があるなあと感じている。

選定委員：昔ながらのよさを残しながら、新しいものを取り入れていく。例えば、低学年の「大きなかぶ」や 高学年の「大造じいさんとガン」など各社同じような教材でも掲載の仕方が少しちがう。光村は、昔ながらの、子どもの心に伝えたい、大事にしたいと考えられているのだと思う。

議 長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いて

ております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、国語科の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

議 長：「東書」という意見がでましたが。

採択委員：東書がいいと思ったわけではないのだけど、教科書を決めていく段階で巻末にまとめて例示をしてあるのと間間に入れて繰り返し定着する方法をとるのとは、どっちが初めて先生になった方でも同じように進められやすいのかなと思ったので質問をしました。また、今回、光村と他の教科書会社と比べてぱっと見た時に、光村はちょっと暗いかなという感じを受けたのもあったので。ただ、よく研究をされていたので。

議 長：他はいかがですか。それでは、38番光村図書の方で意見を集約させていただいてよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

議 長：それでは、国語科国語については、38番の光村図書を旭東地区採択協議会で採択した教科書とさせていただきたいと思います。

音 楽

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：使いやすいというのは、大切なことだと思うが、指導要領解説の中にも、自分と音楽、生活というものの関わりというものを大切にされていると思う。生活や音楽と豊かに関わるができるという点、音楽で生活を豊かにすることと音楽科の確かな学力を育むとともに主体的・対話的な学習を引き出し、深い学びをうながすことができるよう編修されているとある。表現は違うのですが、だいたい同じようなことです。これらに大きな違いがあれば少し補足していただけたらと思います。

選定委員：大きいちがいというのはそれほど無いかもしれませんが、より使いやすさという意味で、生活の音をどう拾ってくるかということや絵や写真で表現されていたり、低学年から高学年までそれがだんだんレベルアップしていくような構成になっていたりしています。

採択委員：ここらあたりでは、あまり大きな違いというのはなく、どちらもよく工夫されている点だと言うことですね。

研究委員：話し合いの中でわかりやすいと意見がでたのが、教育芸術社の1・2年生の教科書の中の例えば、「目をつぶってどんな音が聞こえるかな」では、「今、クーラーの音が聞こえる」とか「カタカタする音」とかを子ども達がメモして「シュシュシュ」って書いたら「友達がシュシュシュ」って答えたというのがある

ます。2年生になると公園に出かけて行ってどんな音が聞こえるかな?という
ことで、聞こえた音を言葉の楽譜にしていくのが入っていて、楽譜どおりに演
奏する楽しさだけではなく、自分の身の周りから音楽を作っていく、それが、
アンサンブルや作曲につながるように考えられているところがあるのだと思
った。ワクワクするようなサウンドスケープにつながって行くのがよいと思
いました。

議 長：他に質問はありませんか。

採択委員：教出にもよく似たことが書いてあるように思える。例えば、英語の歌がある。
教芸にした決定的な理由はどういったものがあるのか。

選定委員：ともによさはあるのですが、先ほども申したとおり、子どもにとって、指導
者にとって使いやすさという観点からすると教芸の方がより使いやすいという
ことである。

採択委員：使いやすさというのが一番大きかったのか。

選定委員：はい。

研究委員：教芸の楽譜の見える化した図形楽譜という書き方で研究資料を作ったので
すが、教科書の中に言葉で○が並んでいて、「タン、ウン、タン、ウン、タン、タ
ン、タン、ウン」というような図形楽譜があります。それは、子ども達が最初
にリズムを学ぶときにリズムと口と合わせて表現する中で、階名やリズムは習
ってないのだけど、教科書を見て分かりやすいように示されています。それが、
1年生の子でもすごく分かりやすいです。これは音楽を学んで行くときに優れ
ているところではないかなということが私たちの話し合いの中でたびたび出
て来ました。それは、指導者の側も音楽が堪能な先生ばかりではないので、どん
な指導者でも音楽を楽しく学べると考えたので決定的なものです。

議 長：他にはよろしいですか。

採択委員：同じ事の繰り返しになるのですが、指導者が使いやすいという言葉は2社の
研究資料の両方にも載っているのですが、どういう使いやすさということ
ですか。

採択委員：図形楽譜と言われたのですが、教出の方にはあまり見たことがないのですが、
掲載されていないのですか。

選定委員：教育出版にも似たようなものはありますが、教育芸術社の方がより分かりや
すいものになっていると思います。

議 長：よろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわた
っての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いて
おります。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、音楽科の教科書について、
旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定
資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：使いやすいはどちらの資料にも書いてあるが、実際音楽の指導をする人が言うのだから、どちらも使いやすいが、こちらよりこちらということになるのだと思う。

議 長：教師の専門性に関わりなく、音楽の楽しさであるとか音の感覚であるとかを子ども達に学びの場面でもっていきやすい、そういう意味での使いやすさなのかなあと思いました。よろしいでしょうか。音楽科は 27 番の教芸の教科書を採択してよろしいか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

理 科

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありました。委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：私も東書を見た時に、一番に感じたのが教科書の表紙の写真ですね。女の子や男の子が実験をする写真が一面にあって、初めは、自分的にはイメージ的に違和感をもったのですが、それが、教科書の中にも出てくるので、授業で使えばいいなとも思ったのです。それと色々な教科書を見ると、問題をつかむ段階で意図的に書き出されているような印象を受ける教科書もあったのだが、東書の場合は、中学年の場合 3 ページくらい導入にさかれています。版も大きいですね普通より、ああいった写真が魅力的だなあと感じたのです。導入部分でくべた時に東書のよさがあれば教えてください。

選定委員：導入部分については、工夫されていると思いました。問題をつかもうというところからじっくりと内容について、子ども同士の会話から問題を提起して考えていくスタイルがありました。東書だけではなく、他の教科書も同じ傾向があるとは思いますが。

採択委員：私も導入の段階で写真からみんなの会話が弾んでいきそうだな、あるいは子ども達の会話の中から子どもが課題を見つけたり、計画を立てたりしやすいなと思っていたので聞いて見ました。

採択委員：重なるところもありますが、今、各教科書の説明を抽出してお話をしてくださいました。そこが、それぞれの教科書会社の特徴だと、強調点だと考えてよろしいですか。その中で理科の楽しさですとか、理科が役にたつんだという有用性ですとかいろいろな今までの取組の中で、実験とか観察を中心に据えてその中で学びの過程を見つけさせたり、その中でいろんなことを発見したりということが述べられていると思います。特に②あたりで説明いただいたのが、東書と大日本、教出のあたりですね。学びのスタイルが身につくとか、実験観察の楽しさということについては、東書の方が特徴的であるととらえていてよろしいのでしょうか。

研究委員：どの教科書でも対話は取り上げられていて、イラストであったり、子ども達の会話を写真で繋げていたりしているところはありません。東書のところでは、それぞれの学年で、先ほど説明したのは、5年生では考察場面で対話が取

り上げられていました。4年生では予想の段階だったり、学年によって対話ができそうなところをピックアップして東書は考えてしているような感じでした。どの教科書でも対話は取り上げられているような感じでした。

採択委員：どの教科書も、一応は大切に扱われているということですね。

議 長：他に質問はありませんか。

採択委員：東書の総評の一番最後に、多様性を尊重する態度や他者と関わりながら問題を解決しようとする態度が育つよう工夫されているという記載があるのですが、上の研究部分でいうと例えばどのあたりになりますか。

選定委員：関わる部分としては、②、③のあたりが関わるかなと思うのです。ここところは実験のまとめであるとか、それまでにいたる経緯のことなのですが、教科書に掲載してある子ども達の会話の流れが書かれていたり、様々な場面で話し合いが設けられている、そういうことで総評を書かせていただいた。

議 長：よろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、理科の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。見本本が一社届かなかったのですね。採択委員さんから写真が魅力的だったという意見がありました。それが東書について。

採択委員：そもそも版が大きい、普通の会社のよりも。写真自体が大きいというのは、子ども達にとって魅力的な写真なんだろうなと思いました。

議 長：最初にきちんと提示をされている資料があるというのは視点としてもとても重要な部分だとは思いますが。

採択委員：子ども達がそういったものを材料として話し合う、きっかけとしての写真というのは大きいなと思います。

選定委員：決め手としての一番大きなポイントは、どんな先生でも使いやすいということだと思います。

議 長：理科については、専科教員も配置される所もありますが、全てではないので、担任として、苦手でも取り組んでいけないといけないということで使いやすいというのは選定の大切な視点ですね。

理科については、2番の東書を採択するというところでよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

地 図

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がござい

ましたらお願いします。

採択委員：どちらも④の所です。尖閣諸島と竹島の写真と説明ということですが、この2社によって説明の仕方に違いはありましたか。

研究委員：大きな違いは見られないかと考えています。

採択委員：巻末の索引の色については、何もでませんでしたか。

研究委員：指示をするときに色が多い方が指示がしやすいかなということではでした。

選定委員：4色の方が使いやすいかなと。

採択委員：色の区別が難しい子たちへの配慮から考えるとたくさんの色を使っているのはいいのかという意見はでませんでしたか。

研究委員：その観点では、お話は出たのですが、2色の方が向いている子もいれば、数が多い方が分かりやすい子もいるという意見でそういった観点で話をしました。

議長：他に質問はありませんかよろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございます。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、社会科地図について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：いろいろと検討されて研究資料を書かれていることはどちらもほとんど同じだなと思いました。でも、その中で発達段階とか使い方の丁寧さとかということで研究された結果、帝国ということですね。

採択委員：3年生から使用するという事で最初簡略な地図からだんだんと詳細な地図ということで、3年生は2年生の生活科で、地図記号のいろはから入るので段差が結構大きいんですけど、そういうところも帝国が配慮しているのかなと思いました。

採択委員：昔から、地図っていったら帝国だったが、その時は、使いやすさというよりは、帝国しかないからという感じだったが、最近は、いろんな工夫がされている。歴史があり、だんだん使いやすいものになっているのでいいのではないかな。

議長：地図については、46番帝国という方向性が示されています。よろしいでしょうか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

図画工作

議長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：授業をしていて子どもも教師も難しいのは、発想構想の段階ですが、どちらの教科書の方が、子どもの発想構想がすこしでも豊かに広がる工夫がされていますか。

選定委員：その点では、日文の方が望ましいかなと考えています。資料の記載にもあるのですが、吹き出しが日文にはたくさんあります。こちらを見てください（教科書を提示）。日文と開隆堂です。同じような内容です。七夕飾りというところの場面ですが、子どもの横に吹き出しがたくさんあります。こちらはほとんどないという感じです。これが、だいたい全学年に渡って同じような傾向にあります。この吹き出しを拾っていくと、例えば、「このあたりをもう少し大きくしてみてもどうかな」とか、「同じ形を下げてみてもどうかな」とか、「引っ張ってみたらどうかな」とかいうふうに発想を広げるヒントが吹き出しの中にたくさんありますので、それを参考にして豊かな表現活動につながるのではないかなと考えております。

採択委員：今お聞きして、発想を広げるヒントはたくさんある、逆にいうと発想を広げて作ったものがどんどん広がっていく、その思いつくことがどうなのかなと思って。子ども達どうしてあるいは先生の投げかけでやっていくか、視覚的にやって物をつくるのが中心なのかを考えた時に、意見はどうでしたか。

研究委員：日文の方には、このように「ひらめきポケット」というページがあって、何か一つを題材にしたときに、子ども達と先生と一緒に何かを発想していくというページが入っていますので、そのあたりで作成であったり、計画であったりという場面において発想を高めていこうと感じたことを話しました。

議長：他に質問はありませんか。よろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、図画工作について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：先ほど、発想構想というのが出たのですが、「表現・鑑賞」ということで、「作る、描く」ということは先生方は従来までの図工で時間をとっていらっしゃるのだが、鑑賞ということで身近な作品、相互鑑賞の時間はとっていらっしゃるようだ。今、対話型鑑賞というのが重要視されてきている。学年ごとの具体的なやり方だとか、方法、材料だとか豊富に紹介されて、ゲーム感覚でやれるようなところから始められるのが日文には見られるので使いやすいのかなと思っています。

議長：美術館でも対話型の鑑賞法を使いながら自分がどう感じるかを言葉にしながらか話していくということでも美術館の鑑賞でも大切にしているところです。対話を引き出すつくりをしているという点でも日文の方ということですが、よろしいでしょうか。図画工作については、116番日文でよろしいでしょうか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

社 会

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありました。報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：盛んに言われている主体的・対話的で深い学び、どれにも問題解決的な学習の形の中でそれぞれ配慮していると感じたんですけど、教出がそういう点でも特徴があるというようなことかどうかと、それを改めてお聞きしたい。それと、教師サイドの使いやすさとは別に、政治的に中立、載っている資料あるいは今の4番のところで領土の問題なんかもあります。事実として押さえなければいけないところと載っている資料で政治的中立、人権に関わる内容というところで問題なかったかというところで改めて教えていただきたい。

選定委員：まず、1点目の問題解決学習ですけれども、教育出版の中学年なのですが、単元の導入において、身近な生活を取り上げて導入をしていくということが工夫されています。例えば、3年生では、買い物調べという活動を初めにもってきて、ここから学習に入っていく。4年生では、自分の家のゴミを調べる、そこから入っていく、それから水についても、自分の身近なところの水を調べながら、学習活動に入っていく点で導入の工夫が、その後の探究的な活動であったり、深い学びにつながっていったりするのではないかなと考えています。それから、2点目の国土の問題等々ですが、どの教科書も中立の立場で書かれているとわれわれは感じました。

研究委員：それから、人権的な立場ということですが、東京書籍、教育出版はアイヌに関する記述が載っています。どちらも載っているのですが、日本固有の問題であるということを取り上げている点でも適しているのではないかなと考えております。

採択委員：東書と教育出版の総評を読ませていただくと、だいたい同じようでよく似ている文章というような気がするのですが、選ぶとしたら教育出版の方を選ぶということですが、東書との決定的な違いは何ですか。

選定委員：特に内容について大差があるようには思えないのですが、東書は2分冊になっています。教育出版と日文は1冊にまとめられているということで、2分冊ですと公民と歴史に分かれていて交互に使い分けられないといけないわけですが、教育出版、日文については1冊にまとめられていますので、その中で授業が展開できる利便性があるのかなと思われま。

議 長：他に質問はありませんか。よろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、社会科の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定

資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

議 長：アンケートにも社会科に関する御意見がたくさん入っていましたが。

採択委員：読む限りは多様な御意見がありますね。

採択委員：採択替えになりますね。理由は明確になっていた方がよいと思う。

議 長：研究ではほとんど差が無いように思われるのですが、最後、選定委員の御意見でいえば、身近な生活を取り上げ、その学習から入っていくというのがありました。探究的な活動につなげやすいというふうなこともおっしゃっていました。

採択委員：アンケートを読んでも、これがいいではなく、この部分がいいという感じではばらばらですね。

採択委員：第5学年で2分冊になっているのは。

議 長：分野に分けてありますね。ランドセルが重たいという件にこたえたのかもかもしれませんね。

採択委員：動機付けというのが深い学びには不可欠なことではないかなと思うのですが、学びの過程なんかもしっかりしているということでは、研究委員が研究したより身近なこととして捉えられるということがいいのかなあとと思います。アンケートの中に、写真が載っていて気になって政治的に中立かどうかというのをたずねたんですけれども、選定委員さん研究委員さんの意見では中立的だと回答がありましたが、そういったところが中立であればより現場に適したものにはいいのかなと思います。

議 長：アンケートの中では、領土の問題に関して言えば、教育出版は平和的な解決への努力が必要と述べていると評価しているものがあります。いかがでしょうか。教育出版が身近な生活から子ども達の学習を進めているということで社会科の教科書と採択してよろしいでしょうか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

議 長：では、社会科は17番教育出版ということですか。

家庭

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：自分と生活との関わりとか、家族の一員として関わっていかうとすることは知識・技能とともに今は重視されていることだと思うのですが、この6項目の中では、2番ですかね、ここらで、開隆堂の内容については、東書の内容と比べ顕著な違いがありましたか。

選定委員：どちらも生活に根差す、より実践的な立場は同じでした。ただ、開隆堂の方では、話し合おう、考えようという具体的な活動が示されており、より適切な教材だと判断しました。

採択委員：ともかく、技能的な教科については知識・技能が大切なのですが、参画意識も大事にしないといけないと思うのです。そういう点で開隆堂の方が少しよか

ったという事ですか。

選定委員：はい。児童、指導者がより使いやすい内容、生活に生かしやすいシンプルな提案がされているということでよかったです。

採択委員：東書の方では、5学年8題材、6学年が7題材で、開隆堂はそれぞれ11題材と9題材ということで多いのですけれども、授業をしていく上で時間的な不都合みたいなものが生まれてくるということはないのでしょうか。

選定委員：教科書を見ていただくと分かるのですが、見開きで1ページが端的に紹介されています。一つの学びの手順がとても分かりやすいので、題材については数が多いかもしれませんが、一つの内容を子ども達、指導者がより生活にいかすために役立てるには、とても分かりやすい構成になっていますので、数より勝るシンプルさ、より端的に子ども達が理解できる、実習できる、考えることができる構成になっていました。

採択委員：どちらの総評にも4つの視点が書かれているのですが、東書の方の4つの視点は、生活を見つめるときの見方や考え方を見つけさせるための4つの視点を書いてあって、開隆堂の方は、見方・考え方の4つの視点でそれによって児童が課題意識をもって主体的に学習に取り組むためのものでした。同じようなものなのか、違う様なものなのか具体的に教えてください。

選定委員：開隆堂の方は、その前に3つのステップというものがあります。問題解決に取り組むための3つのステップ。これは、「みつける気付く」そして、「分かるできる」、そして、「いかす深める」という3つのステップです。それに加えて4つの視点というのは、「協力する」、「助け合う」、「健康安全快適な生活をする」、「人々の生活や文化の大切さに気付く」、「持続可能な社会をめざす」、どちらもステップに同じ視点があるのですが、より開隆堂の方が考えるステップと家庭科の本質である生活に役立てる、これからの自分たちの生活を見つめるところで、そのような社会的な面も含まれているので、わかりやすいのではないかというふうに思っています。どちらの教科書も視点については示されています。

採択委員：総評の中で、東書の中に、上から3つめの○ですが、児童が家庭、地域で取り組めるようにという文章がありますが、この視点って大事だと思うのですが、これは開隆堂でもありますか。

選定委員：同じように設定されています。例えば、⑤の児童の学習意欲を喚起し、補充的な学習、発展的な学習について、家庭でも自主的な学習が促される工夫がされているということで、学校だけではなく、それを生かすという視点で開隆堂でも同様に取り組めるような視点が示されています。子ども達は学校で習ったことを家でやってみたいという構成になっていると思います。

採択委員：東書の中に「複数掲載」とあり、複数というのはヒントとしてはいいのかなと思うのですが、その点はどうですか。

選定委員：数については、すぐには答えられないが、子ども達が学校で学んだ広がりということでは、開隆堂でも工夫をされていると思います。

議 長：他に質問はありませんか。よろしいでしょうか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、家庭科について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：それぞれに工夫をされているのは当然だが、開隆堂の方がより子ども達にも教師にも使いやすい、対話が可能であるということなので、開隆堂でよいのではないかと思います。

議 長：よろしいでしょうか。家庭科の教科書については、9番開隆堂の教科書を採択したいと思います。

採択委員一同：はい。(異論なし)

算 数

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：どの出版社も今日的課題についてそれぞれ工夫しているとおもうのですが、どこにも主体的・対話的で深い学びということが書かれています。啓林館の教科書で他の教科書と比べてよかったというところがあったらもう少し補足していただけますか。

研究委員：総評にもありましたように、啓林館には毎時間のめあてが示されています。これは、岡山型学習指導のスタンダードの進め方に合致するものです。ベテランから経験の浅い先生でもめあてをきちんと示して授業を進めることができるように思います。また、練習問題、復習問題が非常に豊富に用意されていて、個に応じた指導にも対応できるのではないかと思います。「もっと練習」のところにはチェックボックスも付いていて、何回目とチェックしながら進めることで家庭学習にも対応できるという点でよいと思いました。7月13日の山陽新聞に県学テの結果が載っていましたが、基礎基本の力が不十分というふうに記述があったと思います。そういった点からも啓林館の教科書を活用することで基礎基本の力を定着させていくことができるのではないかと考えています。

選定委員：先ほど研究委員の方からめあてが毎時間設定されているというお話がございました。そのめあてに向かうためには、疑問を発するところがございます。単元の導入部分で、「めばえ」、それから、毎時間ねらっての「まとめ」、そして、既習事項で解決できるだろうというところには、自分の力でという指示で自分の学習に対して主体的にそして自力で解決する点を強調しているように感じました。

採択委員：日文の中にも総評で同じような表現がみられ重なるような印象を受けるが、両者の違いについて教えていただきたい。

研究委員：教科書をめくっていただくと分かるのですが、啓林館のページの設定は非常にシンプルなんです。先ほども申しあげました練習問題、復習問題が問題数も非常に豊富に用意されています。問題のレベルによって番号に色分けがされています。少し難しい問題にチャレンジしようと思えばそちらを選ぶことになります。その時間でできそうにないという場合には、その中で基礎基本の色がついているところを集中して取り組んでいく。個に応じた指導がしやすくなっている。見た目非常に分かりやすく示されている点がちがいかないと思います。

議 長：自分でレベルを選んですることも可能だと。そういうことですね。

選定委員：教師の側からも子どもに対して「君はこの問題ができそうだ」と示すことができると思います。

採択委員：プログラミング教育の中で系統的という言葉と低学年からという表現があるのですが、この違いはどういうことですか。

選定委員：各社、プログラミング的思考のページがそれぞれ設けられています。1・2年からスタートしている教科書と1・2年は扱っていない教科書とがございました。啓林の方は1・2年からプログラミング的思考を随時取り入れて「Dマーク」というものと「QRコード」でタブレット等でアクセスすれば可能になるようになっていきますので、低学年からプログラミング的思考を進めているという意味で使っています。

採択委員：ということは、系統的ということは、必ずしも1・2年生からスタートしているわけではないということですね。

採択委員：もう一つ質問していいですか。算数の教科書というのは子どもにとって自学自習につながるということは今の説明でわかりました。算数の指導を苦手としている先生にとっても、教科書の展開に沿っていけば標準的な授業ができるという視点でも大事だと思います。ところが今、学力テストとかでできるようにということであれば、とにかく問題の量を増やして、知識・技能に重点を置いたというのですが、今一番問題にされている生活に活かすとか、何のために学ぶのか今度クローズアップしているのですが、そういうことを考えた時に、教科の有用性、考え方そのもののよさ、そのものに触れなかったら学ぶ意欲も出てこない、ここが日本の一番弱いところだと私は思います。啓林館の中で、主体的・対話的で深い学びに結び付く過程の中で算数の有用性に触れたということが感じられたというものが入っていますか。

研究委員：教育出版の教科書は、見方考え方が充実していました。ですが、レベルが少し高い。教える側からしても、子ども側からしても考え続けることができるのだろうか、そのものになる力がすべての児童についているのかと思いました。基礎基本だけではなくて、幅をもたせて考え方を広げ、深めていくという活動があるのかどうかという質問だったと思いますが、それについては、「学びを活かそう わくわく算数広場」というのがありますが、そういうところは、子ども

も達がグループで相談をしたりとか、自分たちの力で解決していく道が設定されている。授業の中でこれをどのように取り入れていくかは教員の力量にかかるところであります。教科書の使い方をきちんと理解していくことが大切で、「ここはしなくていい」ととぼしてしまうと先ほどおっしゃられた大切なところが抜け落ちてしまうということになりかねないと思います。

議 長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、算数科の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：基礎基本を前面に出されている。基礎基本だけではないが、もっとも弱いとされている面の育成にふさわしいと言われたのですが。

採択委員：どこも①～⑤までの視点についてはほしい同じような感じ、主体的・対話的で深い学びは意識されている。その中でも啓林館というのは、自学自習の配慮がなされている。それから最後に私がとにかくよさに触れながらということ、学ぼうとする意欲や生活に結び付くことは大事なんだけど、だいたいよく似たようなものであろう。

議 長：他はいかがですか。それでは、61番啓林館の方で意見を集約させていただいてよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

議 長：それでは、算数科については、61番の啓林館を旭東地区採択協議会で採択ということをお願いします。

外国語 (英語)

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：外国語英語は初めての選定で大変ご苦労があったと思います。書く活動の場合、ノートやワークシートを使わなくても、教科書の中で書くことができるように工夫されていたり、時間を組み入れることができにくい中で、モジュールで学習できるような構成をとっていたりいろいろな工夫が見られます。内容でも英語の単語の個数が違うのではないかと考えています。英単語の数の問題とかモジュールの扱いやワークシートの問題とかを鑑みて他にどのような議論がなされたか教えてください。

研究委員：各学校が70時間35時間行っているところもあれば、50時間、15時間でスタートしているところもあります。それが、本格実施になった時に、学校の実態に合うのかどうかということから、児童にとって使いやすいだけではな

く、指導者にとっても使いやすい、そして学校のタイムスケジュールにあるように、教科書がどれくらい使えるかを考えました。今の中学年、今度の5年生になる子ども達は、文科省の Lets try を経て教科書を使うことになります。その時に、分量とかたくさん情報があるとか、内容として高度になっていないとか接続の部分に無理のあるものはないか。児童もそうですが、指導者にとっても指導しづらいということになっていけないので、そういうことを考えてもいます。語数については、明確には回答できないが、文章を長く書かせるものもあれば、穴あきにしてそれを埋めていくものもありました。入り口を考えた時に、あまりにたくさんの語彙や文法事項が出てこないような無理のないようなものを考えました。書き込むことについても、実際に書き込む欄もあれば、消してまた書けるというものもあります。また、小学生なので、書きやすい、消しやすいという紙質の話もできました。

採択委員：この関係を考慮して選ぶというのはどうかとは思いますが、今、小学校、中学校で教えている英語との関係を、中学校でどの会社の教科書を使っているかはわかりませんが、系統をもたせるなら慣れた文章、慣れた言葉、英単語に馴染ませておく、繋げていくことによって抵抗がなくいけるのかなと思ったのですが、そういう議論はありましたか。

研究委員：話はしました。委員の中には、高校での指導経験のある教員、小中連携に携わっている教員、中学校区で連携のある教員というそれぞれの立場で、地区で使っている教科書であれば使いやすいなという話はしました。それから、中学校によっては、同じ教材を使っても、時数が違っていたり、指導者も違って上がってきたりしているから中学校で採択している教科書を使う前に小学校の段階で学習したことをすりあわせてから教科書に入るという指導を行っているとう話もありました。来年度から教科書が採択されるわけですが、中学校でもそういうことをしていただくとありがたいという話ができました。

採択委員：聞き漏らしているかもしれませんが、7社の教科書で6つの観点で見比べて、光村がいいということですが、一番の決めては何ですか。

選定委員：4技能について、バランスよく段階的に学習が展開されているというところで、子ども達にとっても大変スムーズな学習ができるであろうというところで。

研究委員：バランスよくと言われましたが、4等分してバランスがいいということではなくて、聞くことから入りまして、聞く話す、読む話すへです。書く部分が大きいと負担になってきますので、このバランスが取れているかどうかです。

採択委員：3・4年生からの接続の部分に、時数でも、文章でもあまり難しすぎてもいけない。中学校へ接続するとき時間数に各小に差があり、中学校でオリエンテーションみたいなことをしてもらっているという話がありましたが、光村の場合は、3・4年生から無理のない接続と中学校に向け内容が難解にならないように考えるとバランスがいいということですか。

選定委員：はい。そこについては、配慮している、中学校にも繋がっていける内容であ

ると私たちは思いました。

研究委員：前半では3・4年の学習はこうであったなあとか、後半では、中学校生活ではこんな部活動があるとか、こんな教科がある、中学校生活に期待をもたせるような単元扱いでありました。

採択委員：光村の教科書は、感覚的に、QRコードが多いなあと思ったのですが、何か意味はあるのですか。

研究委員：家庭学習にもって帰って使うのか、今後学校現場で使うのかは様々である。あることで気にはなる子もいると思います。ALTが配置されていれば、ALTとコミュニケーションをとったり、ALTと話をしてみたいなあという思いを高めたりすることがねらいだと思います。QRコードが目立ちやすいところがあるので、気にはなるが、それが音声を聞くことの全てというわけではないと思います。使い方は今後の課題だと思います。

議長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、外国語科英語の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：よく研究されていたと思います。

採択委員：使ってみてというのでいいのではないか。

採択委員：4つのバランスの話はよく分かってインパクトがありましたね。

議長：しっかり研究していただいているものも参考にしているところで、それでは、38番光村を旭東地区採択協議会で採択ということでよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

道 徳

議長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：偉人を扱っている題材が多いと感じた教科書もあったが、偉人についてのバランスはどうなのか。偉人の話に子どもは興味あるし、教える側も価値観がひとつになっていて教えやすいと思う。逆に言うと、子どもの価値観をつきあわせる、多様な価値観に触れるということになるとどうなのかなと感じることもある。日文の場合は、どうですか。

選定委員：日文については、あまり印象に残っていないので、バランスは悪くないと思います。学年で一つ程度だと思います。全ての学年でそうだったかは今すぐ確認はできないのですが。

採択委員：道徳ノートが付いている教科書が多いのかなと思うのですが、今回は2社く

らいに減っているのかなと思ったのですが、限られた時間の中であの道徳ノートを書いていくというのは時間の確保はできるのかと思う。実際はどうかかなと思う。

選定委員：現在使っている教科書には道徳ノートが付いています。ただ、ここに何を書きましょうというのが限定をされていて、教師が自分で授業を工夫していくことが少し難しいので使いにくいという意見もありました。今回の使いたいと思う教科書は、一つの教材について、1ページノートが確保されています。記入項目については、内容項目について一つ書いてあるのですが、あとの部分は、先生が授業するのに任せられているという感じです。最後に学習のふり返りが載っているという感じです。自由度は高いとは思いますが、ただ、低学年の子どもがすぐに1ページ書けるかという点も難しいことあるとは思いますが。

研究委員：8社あるうち、別冊で道徳ノートが用意されているのは、3社です。あかつき、学図、日文の3社です。それ以外にも光文が目次のところに道徳ノートを別に用意して5mm方眼のようなものを用意してあります。書き方について説明のあるものもありました。実際の授業の場面では、子ども達は話し合うことが求められていますので、その前段階として自分の考えをもつということが大事で、どの教科書も自分の考えをもつための問いを教材の前後や途中に配置しています。それをもとに子ども達は、考えを書くことでもつと教師は認識しています。そして、そこから話し合いにいく形で授業では展開しています。そのため道徳ノートがあると子ども達も考えをもちやすい、教師も形式がそろっていると子ども達の考えを把握しやすい。道徳ノートの内容として、自由度があると授業をデザインして学級の実態にあった授業展開することができる。それに対して、「この質問に対して、考えを書きましょう」と限定されていると考えが狭まっているのではないかと実際の授業の中で感じます。道徳ノートで書くという活動は授業の中で、必須条件ですので、それを支える道徳ノートがあるという点は評価すべき点として考えています。

採択委員：道徳の教科書の中で、だいたい学年で同じようなものが扱われていました。今回の教科書は、挿絵を見て、主人公の表情が浮かかないなどのことがよく分かります。しかし、どの教科書会社にも同じような教材が載っているのに、今回この教科書がよいと考えるのはなぜなのでしょう。その中で、東書はいろいろ違う教材を多く載せているのかなと私は思ったのです。終わり方も自由になっていて、あとは考えさせるものになっていました。そんなものもある中で、今回日文を選びたいという点をもう少し教えてください。

選定委員：選定・研究委員会での経緯を少しお話しします。道徳科の目標を達成するという点で、内容項目に適している教材がどのようなものがあるのかという視点で読みました。時代を超えて受けつがれている教材を多く取り入れている教科書会社もありました。また、教科書会社のオリジナルの教材もありました。いくらか似たようなものがのっているのですが、それでも差異もありました。さらに、子ども達の発達段階に教材が適しているかも含めて選定をしていきま

した。教科書の中に、授業をどうデザインしていくかに関する流れが載っているものがあります。主体的な学びをつくる観点でそれを支えているような活動や工夫といったものも合わせて検討していきました。それらの中で、先ほどおっしゃったところが選定をしていく中で残っていったということになります。その過程で、8社の中から、学図、教出、日文、光文の4社が残りました。東書の方は、時代を超えて受けつがれてきた教材は多いと感じましたが、多面的・多角的、主体的な学びを子ども達がつくっていくことを考えた時、学習の仕方、展開の仕方、それらの補足の部分では4社のうちに入ってきませんでした。

採択委員：道徳は、文章表記で評価をしないといけませんが、1時間の記録が評価にそのままなるわけではないでしょうが、それを貯めていけば評価に使うことはできるのですか。

研究委員：はい。なっています。日文は、質問に対して書くスペースがあります。その下に自由記述のスペースもあります。図や表情などを書くスペースがあります。教科書の教材文どおりの配列になっているので、学校現場では使いやすさにつながると考えます。

議長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、道徳の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：選定委員の先生の話の話を聞くと相当議論されたのがよく分かりました。

議長：それでは、116番日文を旭東地区採択協議会で採択ということでよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

保 健

議長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がありましたらお願いします。

採択委員：学研のよさを言われたのですが、どの教科書も同じような工夫がされていると思います。東書も4つのステップとか示されて、同じように実生活に活かすという文言が出ているのですが、どうして学研を選定したのですか。

選定委員：確かに同じような形態をしているのですが、実際に授業するという観点で見た時に、より使いやすい形としての内容が学研でした。文字がたくさんあるのではなく、イメージが優位で自分が健康な生活を将来にわたってするために、小学校で習った保健の学習を自分のイメージに残りやすくするために、イラストや画像が適切に使われているものが学研でした。授業で使いやすいという判

断で選定しました。

採択委員：何点くらいの観点で評価したのですか。

選定委員：観点としては6点です。

採択委員：6つの観点でいくと学研がよかったということですね。

採択委員：イメージとして捉えやすいというのは確かに役に立つだろうと思いますが、他の教科書も捉えやすい工夫はあったと思いますが、それでも学研なのですね。

選定委員：文字で説明をするとどうしてもピントがぼやけやすくなるのが今の子どもの実態にあります。イメージは鮮明に子ども達の中に残りやすいです。配慮を要する子も分かりやすいイラストや画像があれば、イメージで捉えやすいです。

採択委員：それは、文字とイメージの両方で学習するということですね。

議長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、体育科保健の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：文字とイメージのバランスが一番よいのであれば、これでよいと思います。

議長：それでは、224番学研を旭東地区の採択教科書とさせていただいてよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

生活

議長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がありましたらお願いします。

採択委員：3点から選んだのは分かったが、各教科書のものを見るとスタートカリキュラムから理科、社会へのつながりは書かれています。気づきの質、ここで育てる資質に結び付いていくと思いますが、光村になってその学びの質がどのように高まっていくのか明示されていることを教えて欲しい。その他の教科書、東書や学図の中にも気づきの質とあるが、教出もキャラクターの会話の中に込められていると考えるがその点についてどうですか。

選定委員：光村に関しては、「ホップ・ステップ・ジャンプ」という明確な3段構成になっています。どの教科書も導入・展開・まとめに向かっていく姿がイラストや写真でよく表れています。キャラクターやページの言葉が統一されて、指導者にも、子どもが見通して学習するという点でもこの3段構成というのは非常に分かりやすく示されています。特にジャンプの部分で気づきの質を高めるための指導の工夫ができやすいものが光村にはあります。上下巻の巻末に統一して

あるのが、「ふり返しシール」というものです。生活科カードやノートの方で子ども達の気づきを取りためていくのですが、このふり返しシールを使って自分のオリジナルの教科書を作っていく、教科書の中でふり返しを貯めていくということができます。単元の中で気づきの質が高まり、自分がどれだけ成長できたかという自分への気づきの質が高まるのが光村には特徴的にありました。最も重視されていることは、教師のふり返りの指導のサポート、子どもがふり返る時の材料と手段になります。

採択委員：気づきの質を高めるのは他の教科書にもあるのですが、特に光村がよい点というのはありますか。

選定委員：手段・工夫というところもあるのですが、気づきの質を高めていくために、深い学びという道筋を作っていないといけないです。主体的・対話的な学びが、子どもの思いや願いから発せられた活動の中に盛り込まれていけないといけない。その主体的・対話的な学びを実現していく姿また、それに向かっていく姿が光村の教科書には、子どもの写真や写真に付されている吹き出し、教師の助言によく表れていました。

採択委員：今の観点でいくと東書にも示されていますが、それよりも光村の方がいいということですか。

選定委員：主体的・対話的で深い学びについては、東書と光村は双璧だと思います。スタートカリキュラム、3年生以降の教科、総合的な学習の時間へのつながりというところに関しては、光村がスムーズに最初に単元につながっていくと思います。

議 長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわたっての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いております。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、生活科の教科書について、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

採択委員：光村でよいと思いました。

議 長：それでは、38番光村を旭東地区の教科書として採択してよろしいですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)

国語 (書写)

議 長：選定委員・研究委員から、報告がありましたが、委員の方から質問がございましたらお願いします。

採択委員：総合的に判断してと言われましたが、特色をもって作られていると思いますが、特に光村のここがいいという秀でたところはありませんか。

採択委員：動画資料が充実している点が上げられます。すべての毛筆の教材に対してQ

Rコードがあり、自分の目線で書くとうなるかが分かりやすくなっていました。児童だけでなく、教師も使え、事前に準備をするのに心強いのではないかと感じました。

採択委員：全学年4～6単元で構成されているというのですが、この分量はどういう議論がありましたか。

研究委員：どの教科書も同じような感じで単元が構成されていました。字の大きさをま
くばりよく書くのであれば、構成を考えて書くように工夫されています。

採択委員：他は、8～9単元というのもあるのですが、それは多いのですか。

研究委員：一つ一つの字をばらばらには指導できないので、「曲がりとはね」というよう
に一緒のところが多い方が教えやすいです。

採択委員：ということは、これは適切であり、余裕をもった単元数にしてあるというこ
とですね。

議 長：他にはよろしいですか。お忙しいなかありがとうございました。長期間にわ
たつての調査研究、それから資料の作成等熱心におこなっていただいたと聞いて
おります。ありがとうございました。

(選定委員・研究委員退席)

【協議】

議 長：それでは、先ほどの調査研究の報告をもとにして、国語科書写の教科書につ
いて、旭東地区の採択案を決定したいと思います。委員の方々に先ほどの報告
や選定資料をもとにして御意見の方お願いできたらと思います。

単元数のことや資料が豊富であること、動画が入っていることなどがありま
したが。

採択委員：総合的なことを考えて光村でよいと思います。その教科書もそれぞれ工夫さ
れている中で研究されて光村ということだと思います。

議 長：それでは、38番光村を旭東地区の採択教科書とさせていただいてよろしい
ですか。

採択委員一同：はい。(異論なし)